

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
分担研究報告書

地域におけるがん緩和ケアをコーディネートする人材の育成と支援に関する研究

研究分担者 吉田沙蘭

東北大学大学院教育学研究科 人間発達臨床科学講座 臨床心理学分野 准教授

研究協力者 山谷佳子

国立がん研究センターがん対策情報センター がん医療支援部 特任研究員

研究要旨

本研究では、地域緩和ケア連携調整員の育成を目的とした教育研修プログラムを開発する。本年度はプログラム開発の準備段階として、関係するテーマに関する面接調査を実施した(各分担研究者の報告書参照)。面接調査から得られた結果をもとに、本年度プログラムの開発および試行を行った。

A. 研究目的

がんの終末期における地域緩和ケア連携の体制づくりを担う、地域緩和ケア連携調整員が設置されることが決定した。平成28年度より、その育成が開始することが決まり、地域緩和ケア連携調整員に期待される資質および知識、技能等を整理することが求められている。本研究では、地域緩和ケア連携調整員の育成を目的とした教育研修プログラムを開発する。

B. 研究方法

他の分担研究者が実施した面接調査の結果を元に研修プログラムを開発する。

C. 研究結果

以下に、研修プログラムを示す。

研修目的:

地域全体で、がん患者が適切な緩和ケアを受けるとともに人生の最終段階において可能な限り意向に沿った療養ができる体制を構築していくために、地域の中での顔の見える関係づくりを促し、地域内の関係者が地域の課題を抽出し解決に向けて取り組んでいけるよう、地域の医療福祉従事者間の連携体制を築いていく活動を行う人材を育成する

研修対象:

がん診療拠点病院で退院調整や地域連携の仕事に日頃から従事しているもの(看護師やソーシャルワーカーなど)
がん診療拠点病院の相談室、連携室等の連携業務を行う部門の責任者(部長、室長など)
地域の病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、ケアマネージャーなどの医療従事者
参加者は、原則 と を含む2名以上とする。

また、可能な限り を含めたチームでの参加を推奨

プログラム:

講義
1. 本研修の趣旨説明
2. OPTIMプロジェクトや在宅医療連携拠点事業から現在の政策までの流れ、全体像
3. 拠点病院側が地域連携を進めるためのポイント～拠点病院が地域包括ケアを進めていくための視点～
4. 在宅医療の実際と病院に求める地域連携
5. アドバンス・ケア・プランニング
6. 地域緩和ケア連携調整員の役割
7. 全国の事例紹介
8. 緩和ケアの充実に向けた「泉州地域連携検討会」について(事例)
演習
グループワーク : 他の隣地域とのディスカッション
グループワーク : 同職種での意見交換会
グループワーク : 申込単位や近隣の地域でのグループ作業 (行動計画書の作成)

研修参加者:

参加者183名、59チーム、91施設

参加施設:

県拠点15か所、地域拠点41か所
地域(非拠点病院・診療所・訪看ST・地域包括支援センター・医師会など)35か所

参加地域:

33都道府県

職種別人数：医師30人、看護師91人、SW62人(ケアマネ含む)

プログラムの評価：

第一回目と第二回目の研修事後アンケートによる研修の満足度では、受講者の7割は満足していた(表1)。研修の効果において、研修前後で比較すると地域連携における自信も上がっていた(表2)。

表 1

研修全体の満足度	n 数	平均
第 1 回(2 日コース)	n = 74	1.42
第 2 回(1 日コース)	n = 111	1.75
総計	n = 185	1.62

(range : 1 . 満足 2 . まあ満足 3 . あまり満足していない 4 . 不満足)

表2 (n=181)

地域連携における自信	研修前平均	研修後平均	P 値
地域の他の職種の役割を理解している自信がある	3.12	3.44	0.000
地域の他の施設の医療福祉従事者と気軽にやりとりができる自信がある	3.23	3.57	0.000
がん患者に適切に関わる自信がある	3.13	3.45	0.000

(range : 1 . そう思わない 2 . あまりそう思わない 3 . 少し思う 4 . そう思う 5 . とても思う)

研修の感想：

アンケートの自由記述からは、「患者さんが安心して地域で暮らしていくためには、多くの人たちの助けが必要であることが分かった。改めて顔の見える関係の構築の大切さを考えることができた」といった意見や「地域の問題を考える機会になった。他職種の人と話ができて良かった」、「自分たちの地域でやるべきことのイメージが明確になり、ネットワーク構築を手掛けるきっかけとなった」、「他施設の状況、意見交換でき役に立ちました。今後、課題を明確にし、具体的な解決策をタイムスケジュールを立てて実践していきたい」といった意見が聞かれた。

D . 考察

プログラム開発にあたっては、本年度実施した面接調査の結果(各分担研究者の報告書参照)および研究者間でのディスカッションを元にプログ

ラム案を作成し、複数の立場の専門家から成る地域緩和ケア連携調整員研修専門家パネルを設置し、パネルでの意見をもとに修正を加えた後、パイロット版の研修会を施行した。パイロット版の研修開催を平成28年度中に2回行い、参加者や講師の方々より一定の評価を得るに至った。今後は、来年度の開催に向け、再度地域緩和ケア連携調整員研修専門家パネルで検討した後、必要に応じてプログラムの再修正を行っていく予定である

E . 結論

今後引き続き研究を進め、研修会において、地域緩和ケア連携調整員の候補者である受講者が、期待される役割について学び、それぞれのネットワークの現状を把握し、課題を整理したうえで、ネットワークの中での組織作りと課題解決の方法について検討することができる効果的な研修プログラムの作成を行っていく。

F . 健康危険情報

特記すべきことなし

G . 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

地域緩和ケア連携調整員研修プログラム内容

【研修目的】

地域全体で、がん患者が適切な緩和ケアを受けるとともに人生の最終段階において可能な限り意向に沿った療養ができる体制を構築していくために、地域の中での顔の見える関係づくりを促し、地域内の関係者が地域の課題を抽出し解決に向けて取り組んでいけるよう、地域の医療福祉従事者間の連携体制を築いていく活動を行う人材を育成する。

【開催日程】

基本は2日間日程で行う。1日目は午後から始まり、講義とGW を行い、2日目は午前中に講義(事例)とGW を行う

【研修対象者】

がん診療拠点病院で退院調整や地域連携の仕事に日頃から従事しているもの(看護師やソーシャルワーカーなど)

がん診療拠点病院の相談室、連携室等の連携業務を行う部門の責任者(部長、室長など)

地域の病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、ケアマネージャーなどの医療従事者

参加者は原則 と を含む2名以上とする。また、可能な限り を含めたチームでの参加を推奨

【プログラム内容と趣旨】

講義		
時間	単元名	趣旨・目標
20分	本研修の趣旨説明	・国の考えや政策の流れを知り、本研修の背景を把握する ・現在の地域緩和医療連携の課題を認識する
40分	OPTIM プロジェクトや在宅医療連携拠点事業から現在の政策までの流れ、全体像	・OPTIM プロジェクトの成果から地域連携の必要性を学ぶ ・OPTIM から現行の事業や法律への流れ、政策の全体像を学ぶ
40分	拠点病院側が地域連携を進めるためのポイント～拠点病院が地域包括ケアを進めていくための視点～	・拠点病院側が地域と関係を築いていく上での注意点、ポイントを学ぶ ・院内連携の視点から、地域包括ケアの基礎を学ぶ
40分	在宅医療の実際と病院に求める地域連携	・がん患者の在宅医療、看取りの実際を知る ・在宅医療の中で急性期病院に求められる地域連携の在り方を知る
40分	アドバンス・ケア・プランニング	人生の最終段階における患者の意思を尊重した療養生活を実現させるために医師を含む多職種が取り組むべきことを知る
30分	地域緩和ケア連携調整員の役割	・地域緩和ケア連携調整員の必要性を認識する ・地域緩和ケア連携調整員が地域の中でどんな役割を担おうとしているのかを把握する ・地域の問題を俯瞰的に捉える視点を学ぶ
20分	全国の取り組み紹介	・様々な地域の課題や取り組みを知る ・各地の課題解決ツール紹介することで、自分の地域に役立

		つものを持ち帰る
50分	緩和ケアの充実に向けた「泉州地域連携検討会」について(事例) ・会議の企画から開催までの流れ、実際の会議の運営、会議の結果 ・会議開催のポイント	実際に行われた地域会議の解説により、 ・会議の流れを具体的イメージできる ・地域会議の有用性を理解する ・他の地域の事例から、自分の地域と重なる部分を探す ・会議開催等の運営に関わる事務局仕事やそのポイントを知り、会議開催に向けての具体的な動きを学ぶ
演習		
時間	単元名	趣旨・目標
45分	グループワーク：近隣地域とのディスカッション 他の地域の課題や取り組みを知り、自分の地域を振り返る 自分の地域で一番の課題または、良い取り組みを紹介 他の地域の話聞き、自分の地域の課題や強みを整理(5分程度)	・他の地域の課題を共有し、自分の地域との比較や共通点の発見 ・近隣地域の参加者と話し合うことで、お互いの考えや事情を知り、連携しやすくなる ・所属機関をこえた地域としてのチーム、同胞意識の形成につながる ・地域の課題抽出だけでなく現状整理や地域の強みを把握する ・地域全体で取り組むことの重要性の認識
45分	グループワーク：同職種での意見交換会 職種別での緩和ケア連携における悩みや情報交換	・他の地域で活躍する同職種者とコミュニケーションをとることで、全国的な情報を得る ・同職種でのエンパワメントをはかる ・他の地域との情報交換を行うことで地域差を知り、自分の地域に役立つものを持ち帰る
120分	グループワーク：申込単位や近隣の地域でのグループ作業 グループワーク1で考えた地域の課題を記入(話し合い2~3選定) 地域全体の目指す姿を考える 地域の関係者(キーパーソンとなる人物など)を挙げる を実現させるためにはどんな取り組みが必要か 具体的な行動計画を考える 目標達成時期を記入(一年計画) 各地域のワークシートを壁に張り出し、各自自由に見て回る(ポスター形式での発表を兼ねる) 自分の地域で再度集まり、修正	・今までの講義、グループワークから学んだことを参考に、自分の地域の課題をまとめ、客観的に把握する ・目指す地域の理想の形を考え、ゴールをイメージする ・課題を解決するために必要なことを考える ・自分の地域のキーパーソンを考え、協力を打診したい団体やコミュニティーなどを想定する ・課題解決に向けて、どのような準備が必要か実際に計画を立て、計画書を作成することで、具体的なプランニングができる

